

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表: 令和 7年 3月 28日

事業所名: フレンズ旭町

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	5		一つの部屋に偏らないようにしている	
	②	職員の配置数は適切である		4	4	随時募集している	日による
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	3	1	すべり止めなど設置している	段差などの解消に至っていない箇所がある
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	1	6	1		定期的に全体会議を開く
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	2	2	過去のアンケート結果を見返すようにしている	評価表を職員間で周知して、よりよい支援につなげる
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	4		HPIにて公開している	保護者にもHPIにて公開していることを周知する
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	6	1		外部評価を受けるためにどうするか検討する
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		8		定期的に研修を行っている	研修の頻度を増やせると良い
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	4	1		希望をもとに作成している
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	4	3		より良いツールがあれば活用していく
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	5	2		会議などで意見を出し合う
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	6	1	同じイベントが続かないようにしている	会議などで意見を出し合う
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	4	2		
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1			活動は集団でおこなうものも含まれている
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	1	7		SNSを活用している	送迎で時間が合わないことがある
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	5	2	SNSを活用している	送迎で時間が合わないことがある	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2			

関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	5			モニタリングをした際の経緯を職員間で共有する
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	1	6	1		定期的に周知する
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	5	1		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	3		お迎え時、教諭とその日の変化など話している	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		8			受け入れがない
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	4	1		必要がある場合は連絡を取るようになっている
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3	2		必要がある場合は連絡を取るようになっている
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	1		こども部会に参加した際に、内容を会議等で職員にフィードバックしていく
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4	2		方法を検討する
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	4	3	こども部会に参加	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	2		連絡帳、SNSを活用している	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	3		
	保	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	3		契約時だけでなく、見学時にも説明するようにしている
㉑		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	4			送迎時に話すことがある。その場でこたえられない時は職員間で話し合い、後日返答する
㉒		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	6		コロナ以降できていないため、具体的にどのよう開催するか意見をまとめる

護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	3			対応が後手に回らないよう迅速に動くよう意識を高める
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	5			SNSの更新を増やす
	③⑤	個人情報に十分注意している	7	1			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	3		本人に聞かれないよう保護者とSNSをとおして伝えることがある	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	6		何ができるかを検討する
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	4			マニュアルをどのように保護者に周知するか検討する
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			地震、火災、不審者の訓練を行っている	写真などで様子を伝えるようにする
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	3		毎年度研修を行っている	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	4		毎年度研修を行っている	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	2		医師の指示書を提示されたことがないが、ある場合は遵守する
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1			

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 7年 3月 28日

事業所名 フレンズ旭町

保護者等数(児童数)47 回収数 38 割合 81%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	33	5	0	・中までしっかり確認していないのでわからない ・子どもは2階があるのを気に入っている	・見学には随時対応できるよう準備を進める
	②	職員の配置数や専門性は適切である	32	6	0	・名前と顔写真付きのプロフィールを作成してほしい	・年度ごとに発行できるよう検討
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされている	20	18	0	・中までしっかり確認していないのでわからない ・施設自由見学(保護者)があると良いと思う	・写真などを使い説明するようにする
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている	36	2	0	・子どものことを理解した上で計画作成してくれている ・意向をきちんとまとめてくれている	・今後もご意向を反映していく
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	34	4	0	・調理の時楽しんでいる ・外出先が豊富でいい	・無理なく行ける範囲で外出先を考える
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	12	20	6	・交流しているという報告はない	・公園での活動や散歩などを通じて交流を図るようにする
保護者 への 説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	35	3	0	・半分くらいしか理解できなかった	・丁寧な説明を心掛け、問い合わせにも真摯に対応する
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	35	3	0	・活動の様子を教えてくれる ・連絡帳の内容があまり変わらない	・日々の変化など丁寧に説明していく
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	36	2	0	・丁寧に説明してくれる	・今後も続けていく
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	8	20	10	・保護者同士の交流がないので考えてほしい ・保護者同士で交流する場があると嬉しい	・どのようなかたちで行えるか検討する
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	29	9	0	・苦情とまではいかないことを気軽に言える雰囲気であってほしい	・普段から気になることは些細なことでもしっかり話を聞く姿勢を意識するようにする
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	36	2	0	・言葉が出ない子向けの方法が欲しい	・カードや写真を用いるように検討する
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	26	11	1	・結果が公表されているかわからない ・アピールが少ない	・お手紙などをとおしてホームページで公表していることを周知する
⑭	個人情報に十分注意している	35	3	0	・良いと思う	・今後も十分注意する	
非常時 等の 対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されている	35	2	1	・周知しているわけではないが信頼している	・どのようなかたちで周知することがわかりやすいか検討する
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	32	5	1	・もっと訓練の数を増やしてほしい	・訓練の方法やどのような準備がされているかを周知していく
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	36	2	0	・人数が少ない時の方が楽しい様子 ・支度を自ら行うなど張り切って行っている	・1人1人にあった方法で楽しめるよう今後も創意工夫を続けていく
	⑱	事業所の支援に満足している	36	2	0	・朝の送迎時に車に乗るのを積極的に手伝ってほしい ・親には密になりづらい空気が感じられる	・応えられる要望にはしっかり応えご本人様・保護者様ともに満足していただけるよう臨機応変に対応する

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等  
 デイサービス自己評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 7年 3月 28日

事業所名:フレンズ旭町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		一つの部屋に偏らないようにしている 庭で遊ぶ	
	②	職員の配置数は適切である	4	4	随時募集している	日による
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	すべり止めなど設置している	段差などの解消に至っていない箇所がある
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1		
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	2		定期的に全体会議を開く
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2		評価表を職員間で周知して、よりよい支援につなげる
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		外部評価を受けるためにどうするか検討する
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		定期的に研修を行っている	研修の頻度を増やせると良い
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			希望をもとに作成している
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3		より良いツールがあれば活用していく

支 援 の 提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	3		ニーズに合わせ本人支援をはじめ、項目別に設定したうえで、具体的な支援内容を設定する
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	3		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2		会議などで意見を出し合う
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	同じイベントが続かないようにしている	会議などで意見を出し合う
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	1	7	SNSを活用している	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	5	SNSを活用している	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			モニタリングをした際の経緯を職員間で共有する
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		8		受け入れがない
㉓		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		8		受け入れがない
㉔		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		8		受け入れがない
㉕		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8			必要がある場合は連絡を取る

護者との連携	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1		必要がある場合は連絡を取る
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1		
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	3		
	②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	3		
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	2		
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6	2		
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	3		
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		8		
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			送迎時に話すことがある。その場でこたえられない時は職員間で話し合い、後日返答する
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	6		
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8			
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			SNSの更新を増やす
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		本人に聞かれないよう保護者とSNSをとおして伝えることがある	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	6		何ができるかを検討する

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8			
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		地震、火災、不審者の訓練を行っている	写真などで様子を伝えるようにする
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	2		
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			医師の指示書を提示されたことがないが、ある場合は遵守する
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1		
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		毎年度研修を行っている	
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		毎年度研修を行っている	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。